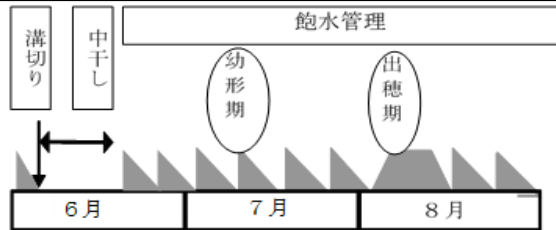


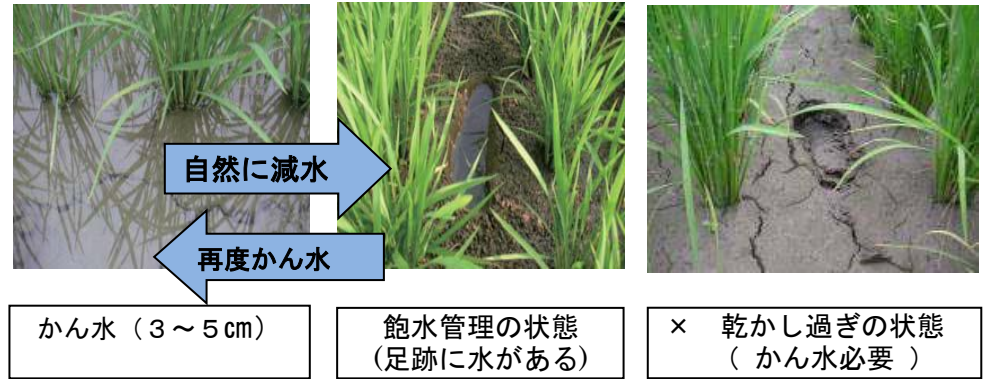
的確な生育診断と穂肥管理で、高品質安定生産を目指そう！

1 中干し後の水管理

- 水稻の根域縮小を防ぐため、出穂1か月前には中干しを終了しましょう。
- 浅水の間断かん水から徐々に飽水管理（田面や足跡や溝に水が溜まっている状態）へ移行し、うわ根の発生促進と出穂後の根の活力を維持しましょう。



【飽水管理の方法】



2 品種別出穂日と穂肥時期のめやす

○ 6月15日現在、コシヒカリ出穂期は平年より2~3日程度「やや早い」と予想されています（県作物研究センター予測）。

品種	出穂日めやす	1回目穂肥		2回目穂肥		2回合計窒素量 (kg/10a)
		時期	出穂前日数	時期	出穂前日数	
新潟次郎	7/16頃	6/16~6/21頃	30~25	7/2頃	14	6
五百万石	7/19頃	6/29頃	20	7/7頃	12	1~2
つきあかり	7/19頃	6/19~6/24頃	30~25	7/5頃	14	3~3.5
わたぼうし	7/21頃	6/29~7/1頃	22~20	7/9~7/11頃	12~10	2~3
こしいぶき	7/25頃	7/2頃	23	7/11頃	14	2~3
こがねもち	7/27頃	7/9~7/12頃	18~15	7/17頃	10	1~3
コシヒカリ	7/31頃	7/13~7/16頃	18~15	7/21頃	10	1~3

- ◎ 稚苗5月10~15日頃、中苗5月15~20日頃に移植した場合を想定。
- ◎ 今後の天候で前後する場合があります。
- ◎ つきあかりや新潟次郎で穂肥前に葉色の低下が見られる場合は、早めに穂肥を施用する。

3 穂肥診断のポイント ~ほ場ごとに自己診断しよう!~

○ 穂肥は、下記の手法で必ず稲の生育状況を確認し、天候や病虫害の発生状況及び地力等を総合的に判断して決めましょう。

(1) 穂肥診断の手順（幼穂長で施用日を決め、草丈と葉色で施用量を判断する。）

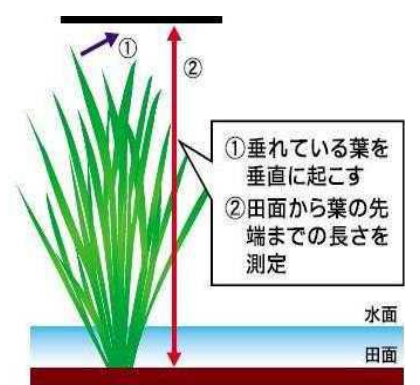
① 幼穂長を測り、出穂前日数を判断する。



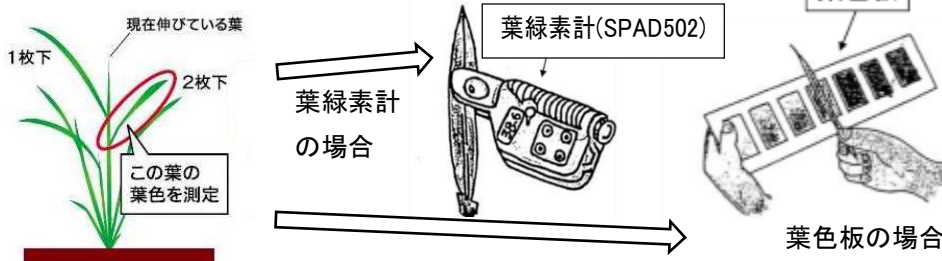
【幼穂長と出穂前日数のめやす】

幼穂長(cm)	出穂前日数
0.02	30日
0.1	24日
0.2~0.4	20日
0.5~1.0	18日
4~6	12日
8~11	10日

② 草丈を測る。



③ 葉色(単葉)を測る。



◎ 草丈と葉色を測るときは、水口や畦畔際を除き、ほ場内の生育中庸株で5株程度の平均とする。

(2) こしいぶきの穂肥 ~時期を逃さず遅れずに施用~

【1回目の穂肥時期及び施用量】

時期：出穂23日前
施用量：1.0kg/10a
※ 1回目の時期は幼穂形成期なので、幼穂を確認し、時期が遅れないようにする

【2回目の穂肥時期及び施用量】

時期：出穂14日前
施用量：1.0kg/10a
※ 低地力地域や後期栄養の不足が懸念される場合は、1.5kg/10a